

## 第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための重点

### 重点目標① 問題解決能力の向上

基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲をはぐくむことにより、問題を解決する力を育成するとともに、社会の中で共に生きる実践的な態度や資質を育成します。



# 1 学力の向上と授業改善

## ◆ ねらい

基礎的・基本的な力を身につけ、それらを活用して、よりよく問題を解決するための、自ら学び、自ら考える力を育成します。

取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
問題解決能力向上に関する授業実践研修会の実施校数	98.4%	95.1%	100%	100% (全小中学校)

## ◆ 現状と課題

○ 四日市市の子どもたちの学力の現状について

- ・ 四日市市では、平成14年度から実施している「到達度検査(CRT)」と、平成19年度から開始された「全国学力・学習状況調査」の結果の分析を行い、四日市市の子どもたちの学力の傾向や課題を分析してきました。

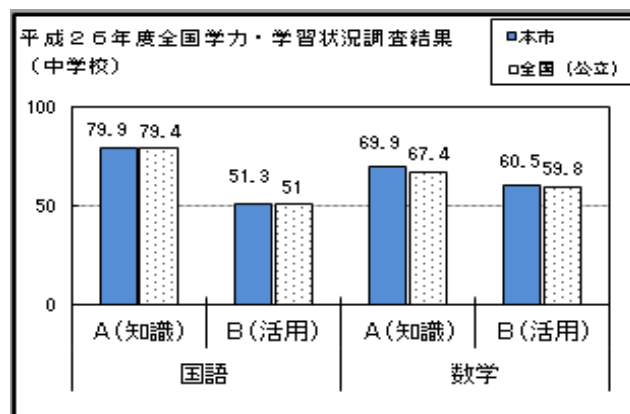
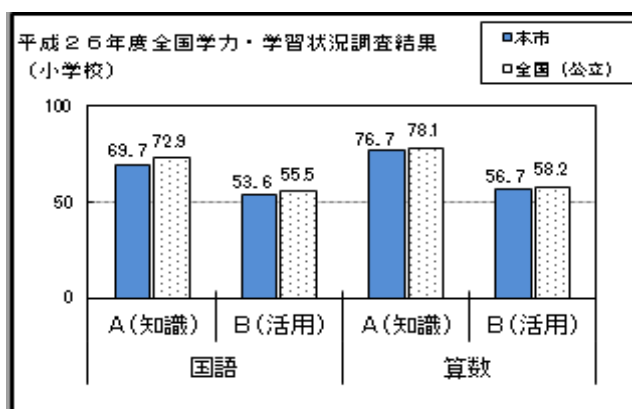
### 平成26年度全国・学力学習状況調査、到達度検査(CRT)について

	全国学力・学習状況調査	到達度検査(CRT)
実施学年	小学校6年生 中学校3年生	小学校5年生 中学校1年生 中学校2年生
教科	国語、算数・数学	小学校5年生…国語、算数 中学校1年生…国語、数学 中学校2年生…国語、数学
実施時期	平成26年4月22日	平成26年4月～5月 ※ 各校において実施日を決定

### 平成26年度全国学力・学習状況調査結果(本市と全国)

【小学校】

【中学校】



\* 詳細については、四日市市教育委員会ホームページ内の白書・報告書にて掲載しております。

アドレス→ <http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu85764.html>

**重点① 問題解決能力の向上**

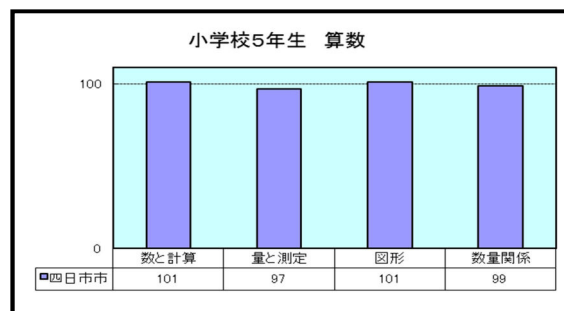
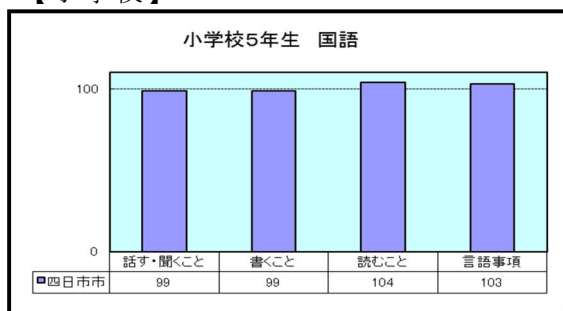
○ 全国学力・学習状況調査の結果から、本市の児童生徒の主な課題（改善すべき点）であると考えられる内容

	小学6年生	中学3年生
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や熟語を読んだり書いたりする問題やことわざ・慣用句・故事成語等に関する問題など基礎的な知識理解に関すること</li> <li>文章の内容や会話の流れを理解し、筆者（話者）の意図や要旨を的確に捉える力</li> <li>複数の図表やグラフから必要な情報を読み取り、関連づけて考え、与えられた条件に沿って自分の考えを整理して記述する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字数に制限があったり、与えられた言葉につなげたりするような「条件に応じて記述する」こと</li> <li>書かれてある内容や情報を読み取り、自分の意見や考えを根拠や理由に基づいて、言葉や文章で表すこと</li> </ul>
算数 数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>画一的な計算の処理能力はあるが、式・計算の意味を理解して表現することや作図の意味を理解して表現すること</li> <li>きまりが成り立つ理由を言葉や数式を用いて、根拠となる事柄を明らかにし、筋道を立てて説明すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識・技能の定着はみられるものの、既習内容を活用して問題を解決していく力</li> <li>ある事柄が成り立つ理由や問題解決の方法を数学的な表現を用いて的確に説明する力</li> </ul>

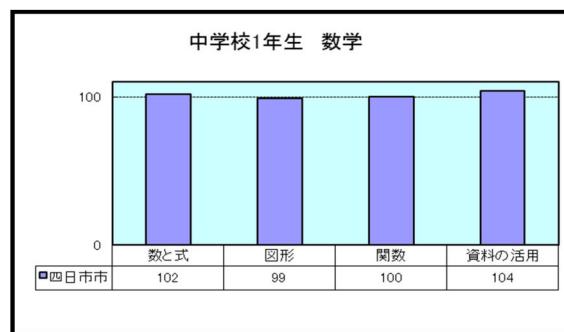
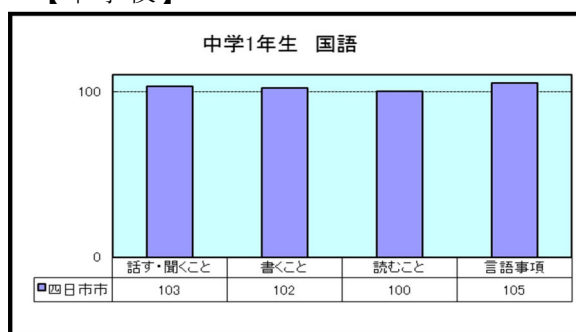
○ 到達度検査（CRT）の結果（全国=100として比較） H26.4～5月実施

- 「到達度検査」（CRT）※については、従来の小5、中2に加え、平成26年度から中1の3つの学年で、国語、算数・数学の2教科を実施しています。

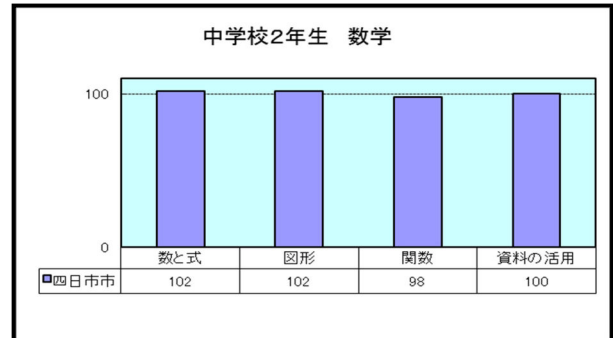
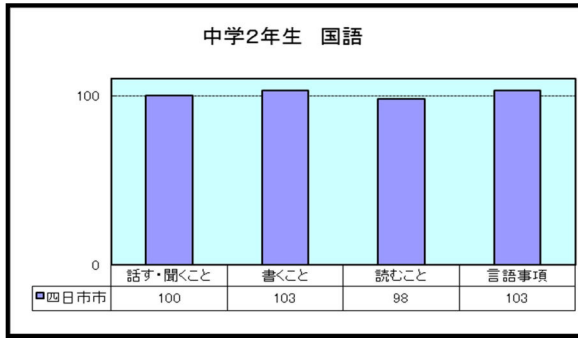
【小学校】



【中学校】



重点① 問題解決能力の向上

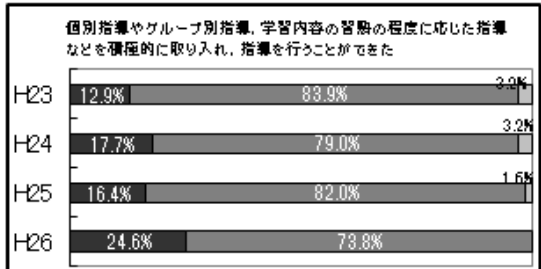
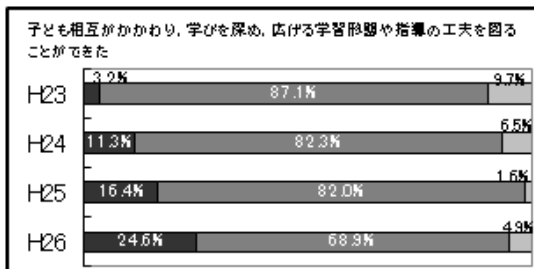
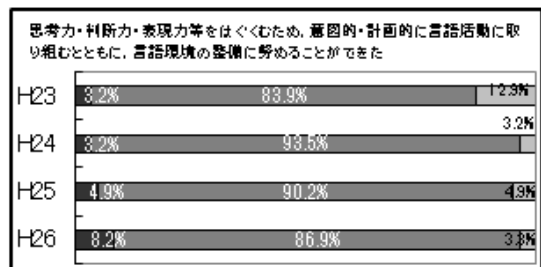
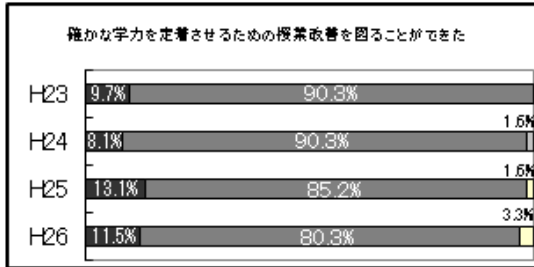
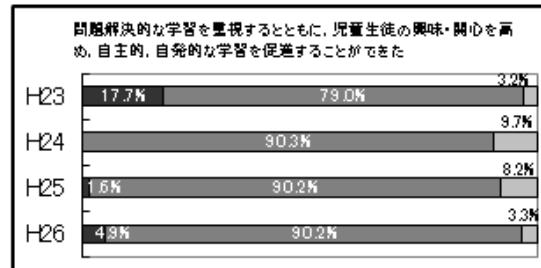
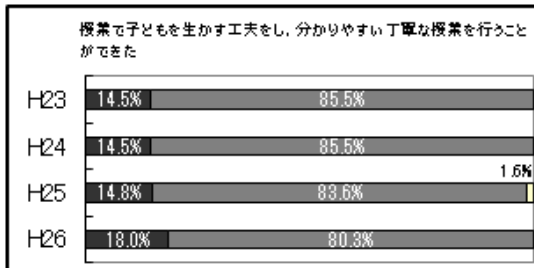


○ CRTの結果から、本市の児童生徒の主な課題であると考えられる内容

	小学5年生	中学1・2年生
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の中心に気をつけて聞いたり、資料を用いて話したりすること</li> <li>段落の関係を読み取ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(中1) 文章から必要な情報を読みとる問題を解くこと</li> <li>(中2) 文章を読み取り要点をまとめる問題を解くこと</li> </ul>
算数 数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>分度器や三角定規を利用して、角度を求める問題を解くこと</li> <li>数直線上に表された数を仮分数や帯分数で表す問題を解くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(中1) 線対称・点対称の図形を選択する問題を解くこと</li> <li>(中2) 「比例・反比例」のグラフや式の問題を解くこと</li> </ul>

○ 小中学校における授業改善の取組状況<学校教育活動の評価から>

【凡例】 A…十分 B…おおむね十分 C…やや不十分 D…不十分



**重点① 問題解決能力の向上**

学習指導要領では「思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実」が重視されていることから、各学校では「言語活動」を位置づけた授業づくりに取り組むことで授業改善に取り組んでいます。また、すべての教科において、ペア学習やグループ別学習等を活用したり、ICTを活用した意見や考えを表現する場面を設定したり、言語活動の充実を進めていくなど、アクティブラーニングの導入に努めています。

「問題解決的な学習の推進」の項目においては、「授業づくりガイドブック」を活用し、各校の実情に応じた実践を一層進めていく必要があります。

今後も、学習課題や発問を工夫するとともに、他者と関わり合うことで、問題を解決したり、子どもたち自らが新しい課題や新たな解決方法を発見したりするような思考の過程を大切に学習をめざし、授業改善・指導改善の充実を図ります。

○ 四日市市における学力向上の全市的な4つの取組について

市内すべての小中学校において「基礎学力の向上」を各学校の教育計画に位置づけて取組を進めています。また、平成25年度1月から取組んでいる以下の4つの取組を、さらに強化して進めています。

【取組1】本調査問題の活用

- ・ 設問の一部を、復習や整理のための資料・課題として、授業の中で取り上げる。

【取組2】本調査趣旨等を踏まえた授業改善

- ・ 「言語に関する能力」と「知識・技能を活用する力」の育成を目指した授業改善（例 文章を縮約する、自分の考えを整理して書く・説明する場面を設ける等）

【取組3】学習習慣の確立と学力補充の充実

- ・ 家庭学習の定着、学校での補充学習の充実、宿題の工夫を図る。

【取組4】継続的な学び

- ・ 学年間及び小中間が連携した取組を実施する。

- ・ 今年度は、【取組1・2】にあたって、教職員に対して、「学力向上研修会」を、10月と11月に4日間に分けて下記内容で開催しました。

校種	月日	対象	研修内容
小学校	10/28(火)	5年生担当者及び研修担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成26年度全国学力・学習状況調査結果において成果のあった実践事例として、2小学校からの実践紹介</li> <li>・ 国語科、算数科、理科における具体的な授業改善や指導方法等の提示</li> </ul>
中学校	11/7(金)	国語科2年生担当教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの全国学力・学習状況調査から具体的な問題を取り上げ、指導のポイントや教科指導事例、実効性のある改善策等の提示</li> </ul>
	11/14(金)	数学科2年生担当教師	
	11/18(火)	理科2年生担当教師	



【研修風景】

- ・ また、【取組3】にあたる家庭学習の定着をめざし、11月末に保護者・地域の皆様向けにリーフレット「四日市の子どもたちの学力・学習状況や生活状況は？」を配布し、子どもたちの学力向上への本市取組についてご理解・ご協力をお願いしました。

- ・ さらに、【取組4】については、学びの空白期間になりがちな春季休業中に着目し、全ての小中学校が課題を作成して、小中連携した取組を進めました。

### ◆ 今後の方向性

- 1 調査結果において課題として考えられる内容が、児童生徒へ確実に定着していくよう学習指導の改善・充実を図っていきます。
  - (1) 四日市市における学力向上の全市的な4つの取組の強化・進展
    - ・ 小学校5年生と中学校2年生において、全国学力・学習状況調査問題を活用した取組の実施
    - ・ 全国学力・学習状況調査趣旨等を踏まえた授業改善
    - ・ 家庭学習の定着と補充学習の充実
    - ・ 学年間及び小中学校間が連携した取組の実施
  - (2) 書くことの指導の充実
    - ・ 書き方の指導（学習用語も含む）や評価による意欲付け
    - ・ ノート指導の充実
    - ・ 国語科だけでなく、他教科においても「書くこと」の習慣化
    - ・ 記録、報告、紹介、感想などさまざまな文章を書く機会の設定
  - (3) 言語活動を取り入れた授業の充実
    - ・ 特に国語科において、説明、対話、討論、報告、要約などの言語活動を位置づけた授業の構築
    - ・ 論理的に思考する場や表現する場を多く設定
    - ・ 自分の考えの根拠を明確にさせる発問・課題の設定
    - ・ 文章（連続型テキスト）と図や写真（非連続型テキスト）を組み合わせたもの（雑誌やパンフレットなど）の活用
    - ・ 読書や新聞記事を通して要旨や要点の整理・把握などに取組む授業の推進
  - (4) 各種学習支援教材等の活用
    - ・ 本市作成の「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」の活用
    - ・ 本市の各種ワークシート等の活用
    - ・ 国立教育政策研究所 「授業アイデア例」の活用
    - ・ 三重県教育委員会学力向上ホームページ「学習教材」の活用
- 2 知力・体力・道徳性をバランスよく育む指導の充実を一層推進していきます。
  - ・ 「特別な教科道徳」への変更を見据えながら、「私たちの道徳」等教材を活用するだけでなく、話し合い活動や各種の体験活動を通して、多様な見方や考え方のできる道徳教育の充実を図ります。
  - ・ 規範意識向上や生活及び学習習慣の定着
  - ・ 健康・体力向上の取組の充実
- 3 学力向上に向けて、組織的に取り組む学校体制の確立を図っていきます。
  - ・ 調査結果を学校全体で分析・活用するとともに、調査結果や具体的な取組を学校だより、ホームページ等で発信をして、学校・家庭・地域が共通した認識をもって、学力向上の取組を進めます。
  - ・ 各中学校区の学びの一体化において、指導体制の一体化、改善を進めることにより確かな学力の育成を図っていきます。

## 2 企業等との連携

### ◆ ねらい

企業やJAXA<sup>1)</sup>が提供する専門的な知識・情報・技能等を活用し、理科教育をはじめとするキャリア教育・環境教育等の教育活動の充実をめざします。特色ある内容、実験や体験を取り入れた授業を実施し、児童生徒に感動を与え、学習への興味・関心を高めさせるとともに、学習の有用性を実感させる機会とし、学習意欲の向上をめざします。

1) JAXA：宇宙航空研究開発機構。四日市市はJAXAと、平成24年10月宇宙教育活動に関する協定を締結。

### ◆ 現状と課題

企業16社の協力（出前授業13社・社会見学9社・教職員研修11社・『四日市こども科学セミナー』9社が協力）により、連携教育を実施しています。

また、平成25年度からはJAXAとの連携教育も実施しています。

#### ○ 出前授業

企業との連携授業では、実験や製品の紹介などが行われ、学校で学習する内容が実生活や社会で活用されていることを実感できる授業になっています。

JAXAとの連携授業では、宇宙に関わる豊富な映像と最新の科学技術や情報をもとに、

宇宙への夢をふくらませ、知的好奇心を喚起する授業となっています。平成26年度は、「体力づくり」や「地球環境」など、宇宙以外の学習内容でも実施しました。

どの授業においても、児童生徒がより興味をもち、よりわかりやすく実感を伴った理解ができるように、改善を図りながら実施しています。

#### 【連携授業の実施件数と授業を受けた人数】

年 度	実施件数	人 数
平成24年度	24件	1,935人
平成25年度	21件	2,225人
平成26年度	38件	3,199人

※JAXAとの連携授業は平成25年度から実施

#### 【平成26年度実施の連携授業の内訳】※校数はのべ

	小学校		中学校		
	実施件数	校数	実施件数	校数	
連携授業	27件	19校	11件	8校	
内訳	企業	19件	14校	9件	7校
	JAXA	8件	5校	2件	1校

#### 【企業との連携授業の様子】



小学4年生「液体窒素を使った実験」小学5年生「ねじ締め作業体験」中学2年生「部品づくり作業体験」

重点① 問題解決能力の向上

【JAXAとの連携授業の様子】



〈写真左〉

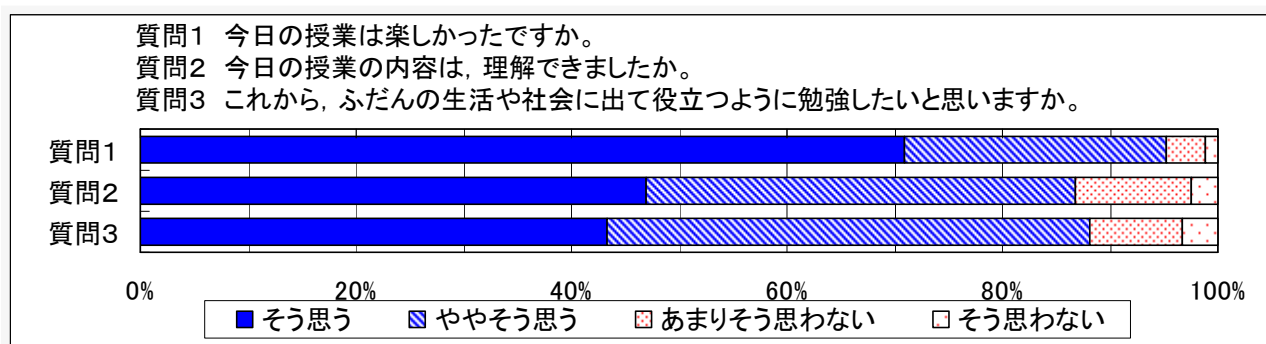
小学6年生 総合的な学習の時間  
「宇宙ってどんなところ？  
～真空の世界～」

〈写真右〉

中学1年生・保健体育  
「宇宙での生活・  
宇宙飛行士の体づくり」

連携授業を受けた児童生徒のアンケート結果を以下に示しました。多くの児童生徒が楽しく、理解できる授業であると感じ、学習意欲を高めています。

【連携授業を受けた児童生徒のアンケート】



○ 社会見学

企業との連携による社会見学は、その場でしか体験や見学ができない施設などで、本物を感じて学習します。平成26年度は25件(21校)実施しました。

同じ企業の出前授業と組み合わせると、より学習効果をあげている学校の例もあります。



「軽量素材を使った次世代自動車を見学」(小学5年生)

○ 教職員研修

平成26年度は、企業3社による2講座、JAXA講師による1講座を実施しました。

企業連携研修では、企業のもつ知識や科学技術などに触れ、本物を体感します。教員は、その経験を活かして授業を行います。また、教員が理解を深めることによって、出前授業や社会見学がさらに充実した学習になるようにしています。

JAXA 連携研修では、直接宇宙に関わらない学習でも宇宙に関わる見方ができることや、学習教材とその授業例を学び、すぐに授業に活かせる研修にしました。



企業連携研修  
「石油精製施設の模型を見学」



JAXA 連携研修  
「模型を使った月食のしくみ」



### ○ 四日市こども科学セミナー

3年目を迎えた『四日市こども科学セミナー』は、本年度も夏季休業中に開催しました。学校以外でも、子どもたちが科学への興味・関心を高め、科学の有用性を実感できるように、科学にふれる機会を提供する場として、企業による実験・体験や JAXA による宇宙に関する講演会などを実施しています。

『JAXA 講師によるペットボトルを使った水ロケットづくり』『企業等による実験・体験コーナー』『港内巡視船「ゆりかもめ」からの港内コンビナート見学』には、多数の応募の中から、抽選で小中学生約500人が参加しました。参加者からは、「とても楽しめた」「面白かった」「また参加したい」「大人も勉強になることが多かった」などの声があり、協力企業からも、「楽しんで学んでもらうことができた」「市内のみならず、多くの参加者と触れ合う貴重な機会となり、企業や取組を知ってもらうことができた」といった声をいただきました。また、『宇宙に関する講演会』では、年末に打ち上げ予定だった「はやぶさ2」に関する話などに、小中学生をはじめ合わせて約410人が参加しました。



「つくった水ロケットを発射」



「企業等による実験・体験コーナー」



「乗船して港内コンビナート見学へ」

### ◆ 今後の方向性

- 企業との連携授業では、新たな企業との連携授業を進めるとともに、実施している授業について、より実感を伴った理解ができるように授業の内容や進め方について、各企業と連携して随時、改善していきます。
- JAXA との連携授業では、過去2年間で実施した授業を紹介し、これまで実施していない学校での実施を進めます。また、子どもたちの興味関心がより高まるよう、JAXA とともに授業内容を検討していきます。
- 教職員研修講座においては、企業連携研修、JAXA 連携研修を継続して開設します。JAXA 連携研修では、学習教材とその授業例を学ぶことに加え、宇宙に関する最新の話題や知識を得る機会となる講座とします。
- 『四日市こども科学セミナー』においては、関係機関との協力を得ながら、実施内容の質の向上に努めていきます。特に、環境に関する内容については、新たに開館した「四日市公害と環境未来館」と協力しながら、充実をめざします。

### ◆ 主な取組状況

協力企業の紹介や連携授業の内容、四日市こども科学セミナーの紹介は、四日市市立教育センター（四日市市教育委員会教育支援課）のホームページで発信しています。

「企業との連携教育」：[http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/nc3/htdocs/?page\\_id=258](http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/nc3/htdocs/?page_id=258)

「JAXA との連携教育」：[http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/nc3/htdocs/?page\\_id=264](http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/nc3/htdocs/?page_id=264)

「四日市こども科学セミナー」：[http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/nc3/htdocs/?page\\_id=261](http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/nc3/htdocs/?page_id=261)

### 3 博物館との連携

#### ◆ ねらい

学習支援展示、プラネタリウム学習投映、小・中学校との連携授業など、観察や体験を取り入れた発展的な学習を連携して行うことで、社会科及び理科等の授業の充実を図るとともに、児童生徒の学習意欲の向上をめざします。

#### ◆ 現状と課題

##### ○ 常設展

平成26年度は、リニューアル工事もあり、常設展示室での学習支援展示は、休館までの期間のみとなり、小学校6年生を対象とした「大昔の四日市ー弥生時代と古墳時代」を実施しました。例年行っている全学年を対象とした「四日市空襲と戦時下の暮らし」や小学校3年生を対象とした「むかしの暮らし」(企画展として開催)については、今年度は実施していません。

平成26年4月12日(土)～5月11日(日)

「大昔の四日市ー弥生時代と古墳時代ー」

〔平成26年5月12日(月)～平成27年3月20日(金)〕  
リニューアル工事のため休館



##### ○ プラネタリウム

###### ① 小学校との連携授業

例年、小学校では立体映像装置を用いて連携授業を行っていましたが、平成26年度は、4年生、6年生を対象に移動式プラネタリウムを活用した連携授業を行いました。全天に映像を出して星座の探し方や月の満ち欠け、宇宙の不思議について学習することができました。天体の疑問を解決するための情報を提供することで学習意欲の向上につながりました。



(移動式プラネタリウム)

###### ② 中学校との連携授業

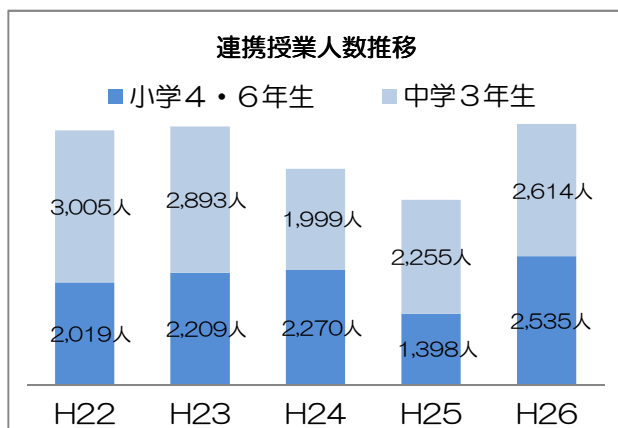
移動式プラネタリウムを活用して、天体の動きについて連携授業を行いました。天体の動きや宇宙の疑似体験など、担当教諭と連携しながら授業を展開することができ、生徒の天文に関する基礎学力の定着につながりました。

プラネタリウムを活用した授業は、天体の動きを視覚的に示して学習効果を上げるだけでなく、宇宙への夢を育む機会になりました。また、担当教員と連携して授業を展開することで、児童生徒の問題解決の進捗状況に合わせることもできました。



中学校連携授業(移動式プラネタリウム)

重点① 問題解決能力の向上



**担当教員のアンケート結果**

評価項目	5段階評価 (平均)	
	小学校	中学校
学習効果を上げることができた	4.7	4.7
児童は宇宙に興味を持てた	4.6	
基礎学力の定着につながった		4.6
今後も博物館と連携をする	4.6	4.8

◆ 今後の方針

○ 常設展

- ① リニューアル後の常設展は、これまでのケース内に資料を並べる展示手法から、原寸大再現という展示手法に変わっています。これは、学習支援展示「むかしの暮らし」で、子どもたちの理解を深めるのに効果的だった当時の家屋の再現をさらに進め、時代ごとの建物を再現することで、子どもたちに当時の四日市にくらす人々の生活のようすが、よりイメージできるようにしました。

また、原寸大再現展示の資料には、あえて説明掲示をなくしました。周囲を見回してどういう場所なのか、何をやる場所なのかを考え、そこから物の見方や考え方を得ることを期待しているためです。

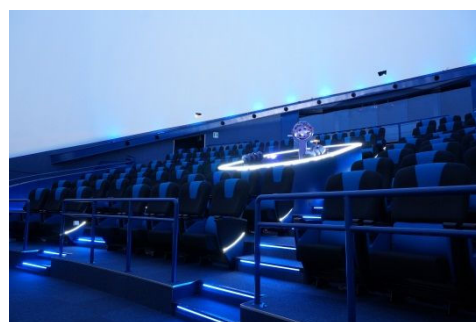


学校との連携で行う授業においては、今まで以上に深く、そして多面的な学びが期待できます。この博物館でしかできない学びが得られるように、学ぶ場としての活用を学校とともに考え、連携を進めていかななくてはなりません。

- ② 今まで通り、中学校での総合的な学習の時間に行う「職業体験学習」(P.109 参照) や社会科の学習支援として「むかしの暮らし」を実施していきます。実際の道具の展示・体験、常設展の原寸大再現展示の活用、ボランティアによる体験談、ワークシートの活用を行っていきます。「むかしの暮らし」以外の学習支援展示も、より多くの学校が利用していけるように、教職員を対象とした「体験的博物館講座」などで、展示内容や資料、体験グッズなどの情報を提供し、学習支援の展開や効果について広く呼びかけていきます。

○ プラネタリウム

最新の投映機器を用いた学習投映の回数を増やすことで、より多くの学校で利用できるように整備します。また、四日市公害と環境未来館と連携した学習投映を行います。なお、中学校のみ、引き続き移動式プラネタリウムの連携を行っていきます。



## 4 問題解決能力の向上

### ◆ ねらい

「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」を活用した授業づくりを進め、子どもたちの問題解決能力の向上を図ります。

### ◆ 現状と課題

- 平成25年4月、「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」（以下「ガイドブック」）を各小・中学校の教職員に配付しました。

問題解決能力向上のための5つのプロセスについて、研修担当者研修会で周知するとともに、ガイドブックの利用を啓発しました。また、各小・中学校の校内研修会等において、問題解決能力向上のための5つのプロセスの視点で、授業改善について助言・指導をしました。

- 夏季教職員研修講座において、学力向上・授業づくり研修として「ガイドブックをもとにした授業実践発表」を実施しました。ガイドブックの作成に関わった問題解決能力向上プロジェクト委員が講師となって、中学校数学科、小学校国語科の授業について、それぞれのプロセスで留意することや具体的な実践の仕方についての研修を深めました。

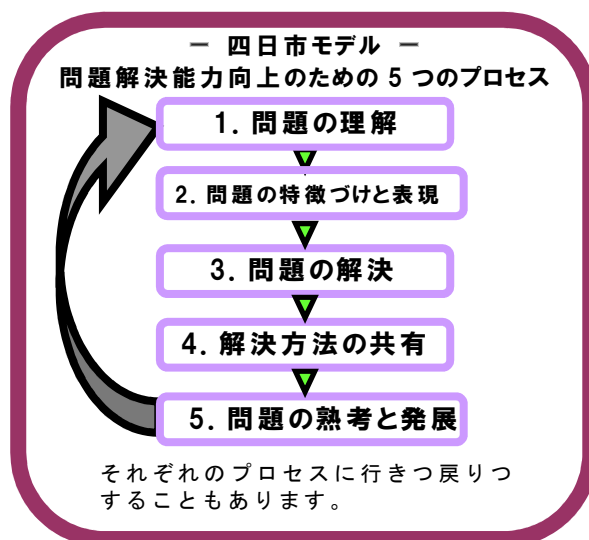


夏季教職員研修講座 授業実践発表

- 本年度は全小・中学校で「問題解決能力向上に関する授業実践研修会」を実施することができました。また、ガイドブックを活用して、授業研修会を実施した小・中学校の割合は、昨年度の50%から90%に上昇しました。ガイドブックを配付して2年が経過する中で、その周知を図ることには一定の成果が見られました。しかし、問題解決能力向上のための5つのプロセスの視点から授業改善を進める必要性について、継続して啓発する必要があります。

### ◆ 今後の方向性

- 小中学校において「問題解決能力向上のための5つのプロセス」に基づく授業改善を図ります。特に、第2プロセス「問題の特徴づけと表現」を大切に授業展開により、子どもの問題解決能力の向上を目指します。
- 「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」活用推進協力校を募り、具体的な授業実践研究を進めます。
- 教職員研修講座において学力向上・授業づくり研修会を実施し、ガイドブックに基づいた問題解決能力向上のための具体的な授業づくりについて学びます。



## 5 学びの一体化の推進

### ◆ ねらい

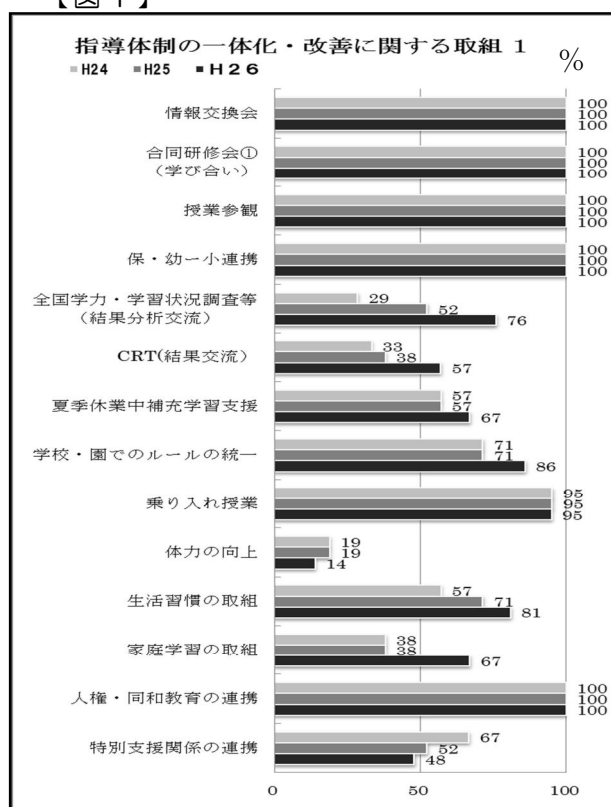
「学びの一体化」の推進により、指導改善と教員の意識改革を進め、幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携を強化し、一貫性・系統性のある教育の推進に努めます。推進協力校区を設定し、子どもたちの「確かな学力」「健やかな成長」のための滑らかな接続をねらった具体的な実践を進めます。その成果を分析して全中学校区で共有し、11年間の教育に「見通し」と「責任」を持つ取組の充実を図っていきます。

取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
小学校高学年における一部教科担任制を実施する小学校数	15校	15校	15校	全小学校で実施
校区あたりの乗り入れ授業日数	8.0日	9.4日	14.8日	全中学校区において年間20日以上

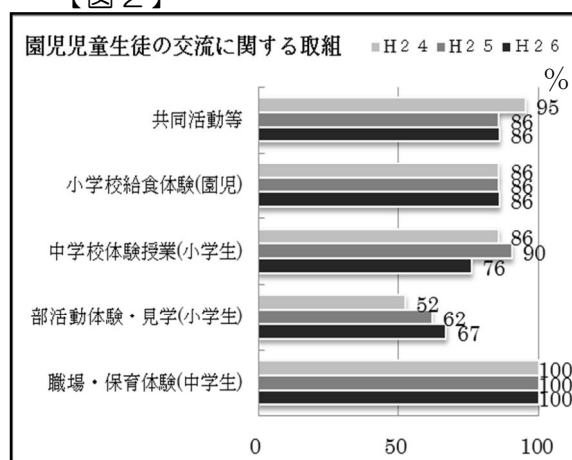
### ◆ 現状と課題

○ 各中学校区の活動（平成26年度学びの一体化アンケート結果分析から）

【図1】



【図2】



〔中学生と園児との交流〕

○ 平成26年度「学びの一体化」第2ステージでは、これまでの重点取組内容を継続して全市において進めた結果、多くの取組に関して校種間の連携を進めることができました。【図1、2】

重点① 問題解決能力の向上

とりわけ、全国学力・学習状況調査等の結果分析交流や CRT（到達度検査）の結果交流及び家庭学習の取組において一層の進展が見られました。（【図1】）また、園児児童生徒の交流に関する取組（【図2】）では、部活動体験の見学の取組が進みました。

一方、子どもたちの学力向上や発達段階においてつけるべき力を明確化することをねらいとして、平成25年度から、重点取組内容（【図1、2】）に加え、今日的課題である7つの項目に関する実践的な取組（【図3】）を展開しています。

【図3】

この中では、問題解決能力をテーマとする合同研究会や全国学力・学習状況調査等を活用した授業改善・教材研究及び春季休業中の学習課題作成といった取組に大きな伸びが見られました。

また、キャリア教育については、平成25年度に全中学校区で、各学校のあらゆる教育活動をキャリア教育の視点で捉え直し、作成した全体計画や年間計画に基づく実践が進められました。このことで、中学校区の現状に応じた育ちの連続性を意識した取組をさらに強めることができました。

このような取組から、平成26年度は、各中学校区において、子どもたちの「確かな学力」「健やかな成長」のために有効と考えられる取組をより明確にして実践することができました。

今後も従前の取組の検証・改善を図りながら、具体的に実践的な取組を進めます。

【成果】

○ 研究体制及び指導体制の一体化

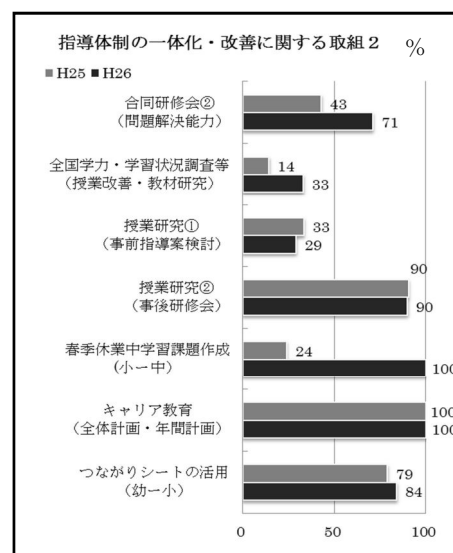
- ・ 各中学校区の特徴や子どもたちの実態を共有し、共通の研究テーマを設定した上で、課題解決のための指導体制の一体化および連絡体制を強めるための組織づくりが進んできています。このことから、自校区の子どもたちの良さや課題についての共通理解が深まってきました。
- ・ 協働の授業づくりや授業参観から、授業を通して子どもの姿の見とりが進み、指導の改善に生かすことができるようになってきています。（見とり…子どもがどのように学んだかを丁寧に追うことで、多角的に子どもをとらえること）

○ 「本市における学力向上のための4つの取組」の充実

- ・ 全国学力・学習状況調査や到達度検査の結果をもとに、小学校と中学校が、校区の子どもたちの課題等を把握し、授業改善・指導改善へ生かしたり、夏季休業中に中学校で実施する補充学習に小学校教員が参加したりすることで、学力向上の視点から学びの一体化の取組の充実を図っている中学校区も増えてきています。
- ・ 平成26年度は、学びの空白期間になりがちな春季休業期間に着目した学習課題を全ての小中学校で作成し、学年間及び、小学校から中学校への学習面の連携を一層進めることができました。

○ キャリア教育の視点による系統的な教育活動の充実

- ・ 各中学校区が、平成25年度作成の中学校区キャリア教育全体計画や年間計画に基づき実践し、その取組の評価・検証を行うことで、発達段階に応じた「つけるべき力」を明確にした系統的な教育活動の充実を図ることができました。



〔学びの一体化アドバイザーによる研修会  
早稲田大学 小林宏己教授〕



重点① 問題解決能力の向上

○ 指導の徹底と学習意欲・学力の向上

- ・ 小学校における一部教科担任制については、技能教科を中心として実施している場合が多いのが現状です。また、理科や外国語活動において教科担任制にしたり、理科と社会、国語と算数を学年間・学年内で交換したりしている学校もあります。この他にも一単元や数時間単位で学年間において授業交換し、指導をしている場合もあります。一人の教員が複数の学級、学年にわたって教科指導に責任を持つ体制をつくることで、教員の共通理解が図れ、子どもの学習意欲・学力の向上に効果があったという報告がありました。

○ 市内全中学校区への人的な配置

- ・ 乗り入れ授業等取組については、今年度から、全ての中学校区に人的配置を行いました。このことで、全ての中学校区で計画的に乗り入れ授業に取組むことができました。とりわけ、推進協力校では、前年度の活動を踏まえた乗り入れ授業や連携した取組が進みました。（【図4】【図5】）
- ・ 今年度は、全中学校区における全ての連携した取組を以下の項目別に改めて整理しました。

乗り入れ授業に係る取組		それ以外の連携した取組	
①	乗り入れ授業	④	授業参観・授業研究
②	乗り入れ授業打ち合わせ（指導案作成等）	⑤	園児・児童・生徒の交流活動
③	補充学習		

右グラフが示すように、乗り入れ授業だけでなく、中学校区の子どもたちの学習状況等実態を把握したり、異校種の指導に学んだりという視点での授業参観や公開授業も盛んに行われています。（【図6】）

○ 幼保小連携の充実

※ 重点目標⑤ 「就学前教育の充実」(P.104) 参照

- ・ 就学前の育ちとの滑らかな接続を図るため、行事として交流していた幼保小の連携が深まりました。
- ・ 各中学校区で、四日市版スタートカリキュラムを参考にした取組が進んでいます。（【図7】）

＜平成26年度 小学校38校における教科担任制の状況＞

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	総合	外国語
1年	12		0		0	13	2		0		
2年	21		0		0	23	10		0		
3年	23	0	0	2		36	23		0	0	
4年	20	2	0	5		37	33		1	0	
5年	19	2	1	9		38	30	34	0	0	2
6年	18	3	1	11		37	29	35	0	0	3

**教科担任制**  
 小学校では、一部の教科について、教員の得意分野を生かし、年間または、期間を決めてある学年または一部の学級を対象に実施するものを表す。  
 ※ 国語は、書写での実施。ただし、6年の2校で国語全般を実施。

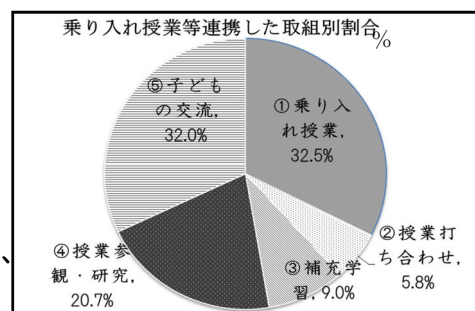
【図4】 乗り入れ授業に係る取組

	乗り入れ授業平均日数
推進協力校区	17.3日
上記以外	11.8日

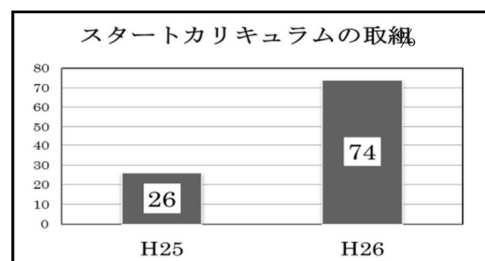
【図5】 中学校区内における連携した全ての取組平均日数

	全取組の平均日数
推進協力校区	33.7日
上記以外	28.3日

【図6】 乗り入れ授業等連携した取組別割合（総日数 687日）



【図7】 スタートカリキュラムの取組



**重点① 問題解決能力の向上**

○ 平成26年度推進協力校区（3校区）における取組

推進協力校区では、市単非常勤講師を中学校に配置することで、乗り入れ授業や各中学校区におけるオリジナリティーのある行事や授業を通じた園児児童生徒間や教師間の交流等、協働的な取組が進みました。

また、校区の子どもの実態を把握・分析をすることで、教員同士が、異校種の指導に学んだり、学習の系統性を考えたり、授業改善や校区の課題解決につながりました。

**【課題】**

○ 今年度は、全ての中学校区において乗り入れ授業を進めるため、講師配置に工夫を施しました。しかし、依然として教員の負担が大きい取組となっています。

引き続き、校区内の小学校数、学校規模等の課題を考慮した講師配置を行い、スムーズな乗り入れ授業の実現に努めます。

○ ティームティーチングによる指導や少人数指導を充実させる学校は多くありますが、一部教科担任制を中心的な手だてとすることは、限られた人的配置の中では難しい状況があります。

○ 校区の全体研修会等では、参加者が意見交換や検討し合う場所や人数等を工夫し協働的な参加体験型研修会等に取り組んでいます。今後も継続して、本市だけでなく先進的な中学校区の取組等を紹介するなど、子どもたちにも教職員にも効果が実感できる取組となるよう指導体制の充実を進めます。

○ 「体力の向上」については、継続的な課題です。中学校区で連携した取組と体育科授業の授業改善を図ります。

**◆ 今後の方向性**

○ 平成22年度から拡充してきた先行実施校区・推進協力校区は、平成26年度をもってその指定を解消しました。今後、これまでの推進協力校区は、推進校区として取組の一層充実を図り、市内の先進的な取組を進めます。

○ 全市的に校区の実態や課題に応じた人的支援による効果を検証していきます。

○ 各中学校区では、これまで築いてきた指導体制に基づき、「学力向上」、「心と体の健やかな成長」を最重点取組内容に位置づけ、「本市学力向上のための4つの取組」や「体力の向上の取組」を進めるとともに、教員の意識改革と授業改善を図ります。

○ キャリア教育全体計画や年間計画を随時修正や改善を図りながら、一層中学校区の実態に即した就学前から中学校までの一貫性・系統性ある教育の充実を努めます。

○ 本市総合計画に位置づく新たな研究校区「教育実践研究推進校区※」を2中学校区指定し、「問題解決能力向上」をテーマとして調査研究を進めます。

本実践研究推進校区では、学びの一体化の指導体制や研究体制を基盤とした実践的な研究を行い、その成果と課題を市全体に普及します。

※ 教育実践研究推進校区…四日市市が、新たに指定する調査研究中学校区の名称

＜推進協力校区の推移＞

※H22,23 は先行実施校区

年度	学校区名	中学校数	小学校数
H22	塩浜中校区 羽津中校区 常磐中校区	3	5
H23	塩浜中校区 羽津中校区 常磐中校区 富田中校区 西陵中校区 桜中校区	6	11
H24	富田中校区 西陵中校区 桜中校区 橋北中校区 大池中校区 西笹川中校区	6	11
H25	橋北中校区 西笹川中校区 大池中校区 西朝明中校区 中部中校区 楠中校区	6	11
H26	中部中校区 楠中校区 西朝明中校区	3	5

〔中学校区の教職員研修〕





## 6 ICTを活用した授業の充実

### ◆ ねらい

主体的にICTを活用し、コミュニケーションを通して問題の解決ができる児童生徒を育成します。また、デジタル教材を整備し、分かりやすい授業の実現をめざします。

取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
ICTを活用して教科指導している教員の割合	96%	96%	96%	100%

### ◆ 現状と課題

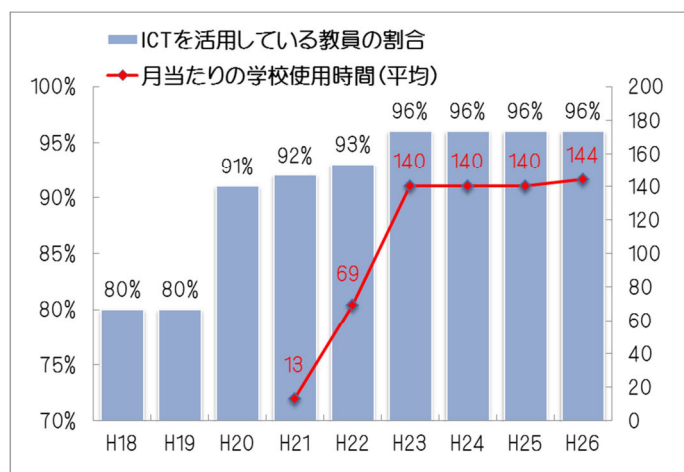
ICT環境整備として、平成21年度に電子黒板等を各校3～4台導入し、各教科のデジタル教科書・教材等を順次整備しました。そして、平成25年度には、小学校学習用コンピュータ機器をコンピュータの持ち運びが可能なタイプに更新したことで、コンピュータ教室以外で活用することが可能になりました。

このように、インフラ・デジタル教材を整備したことにより、一定のICT環境が整い、ICTを活用した授業時間が増えました。現在では、1校当たりのICTを使用する時間数は、月平均144時間になり、日常的にICTが使われるようになりました。

平成26年度は、特別支援学級に大型モニタの導入を行いました。各教科や自立活動等の指導において、特別な支援を必要とする子どもたちが、特性に応じた活用をすることにより、その効果を高めることができました。

ICTの効果的な活用につながるよう、要請に応じて機器の操作や活用方法の研修を行いました。

【ICTを活用して授業ができる教職員の割合とICT活用授業時数】



【教室でICTを活用する児童】



## ◆ 今後の方向性

### ○ 授業の充実

子どもたちが ICT を活用して、自らの考えを表現し、互いに学び合うなど協働的な授業を推進し、問題を解決する力を育成します。

また、各教科の授業等で児童生徒の実践的な情報活用能力と情報モラルの育成（情報教育）を図ります。より実践的な情報モラル指導のための教職員研修、出前研修を充実させ、情報教育における教員の指導力向上のための研修支援を実施していきます。

### ○ ICT 環境整備

電子黒板やコンピュータ教室等のシステムの整備について、今後の技術進化を見据え、より効果の高いシステムの研究に取り組んでいきます。

### ○ 若手教員への支援

ICT を活用した授業が増えてきた一方で、若手教員が授業で ICT を活用している時間が少ない現状があります。そこで、若手教員を中心とした研修を行い、ICT を活用した授業づくりを通して、若手教員の授業力向上を目指し、市全体の教員の人材育成へとつなげていきます。

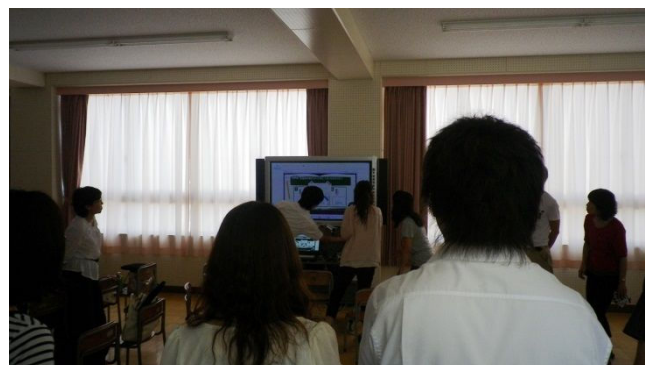
### ○ 校務の情報化

教員が子どもたちと向き合う時間の確保や教育の質の向上と学校経営の改善につながるよう、情報通信技術の進展にふさわしい校務の在り方について検討していきます。

【ICT を活用して学び合う児童の様子】



【若手教員を対象とした研修の様子】



【情報モラルについて研修する教員の様子】



## 7 外国語活動・英語教育の推進

### ◆ ねらい

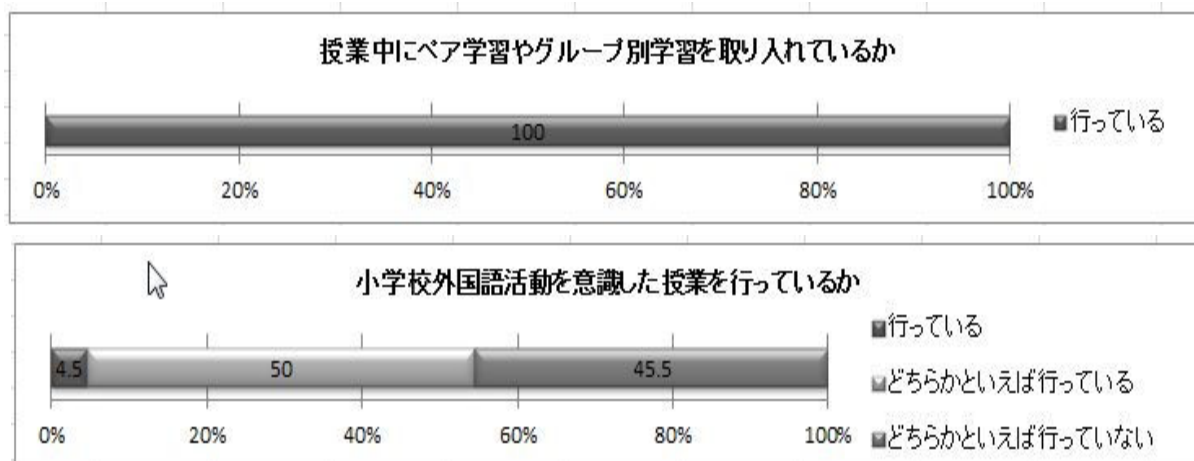
国際化時代に生きる子どもの育成をめざして、コミュニケーション能力を高めるとともに、外国の文化や生活への興味や理解を深め、日本の文化や自分の考えを英語で発信できる力を養います。

取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
小学校外国語活動研修 講座受講経験者の割合	60.0%	74.3%	90.2%	100%
英語指導員の派遣回数 (年間)	幼稚園 学期1.3回 小学校 1校あたり 平均 34.2日 中学校 1校あたり 平均 72.5日	幼稚園 学期1.3回 小学校 1校あたり 平均 36.7日 中学校 1校あたり 平均 74日	幼稚園 学期1回 小学校 1校あたり 平均 36.7日 中学校 1校あたり 平均 75日	幼稚園 学期1回以上 小学校 1校あたり 平均 38日以上 中学校 1校あたり 平均 80日以上

### ◆ 現状と課題

#### ○ 中学校における英語教育の取組状況

小学校外国語活動で育まれる「聞くこと」「話すこと」に加えて、中学校段階から導入される「読むこと」「書くこと」をバランスよく育成するような指導を行っています。

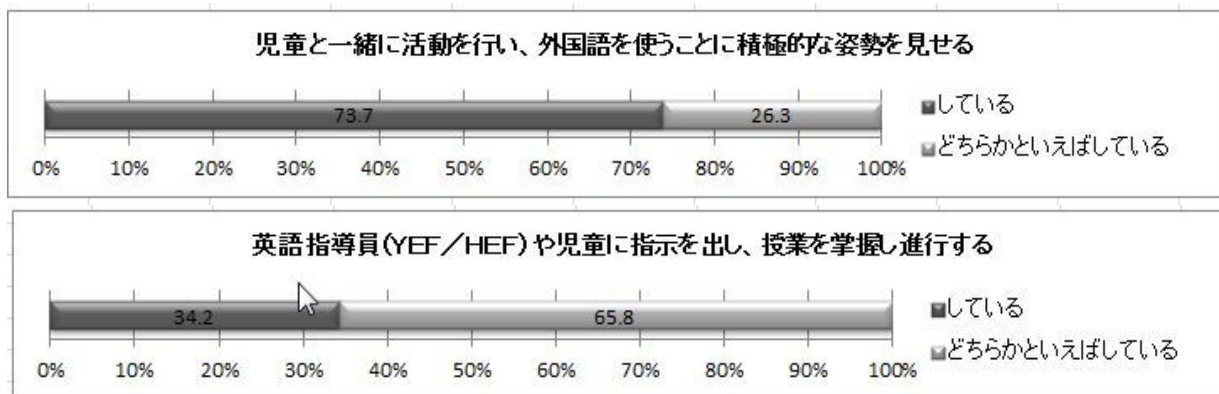


言語活動を効果的に行う視点から、全ての学校がペア学習やグループ別学習を取り入れ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しています。

「小学校外国語活動を意識した授業」に関する項目は、昨年度と比較すると、行っている、どちらかといえば行っているという肯定的な回答が前年度比で4.5ポイント増加しましたが、引き続き、小学校外国語活動の目標と内容を意識した指導を今後進めていく必要があります。

**重点① 問題解決能力の向上**

○ 小学校における外国語活動の取組状況



【外国語活動についてのアンケートより】

外国語活動において指導者は児童の手本となるべく、積極的に英語を使用しています。英語指導員とのチームティーチングにおいて、全小学校で担任主導の授業を行っていますが、今後も担任主導による外国語活動の研修を一層進めていく必要があります。

◆ 今後の方向性

- 小学校外国語活動カリキュラム検討委員会において再編成された、本市独自の小学1～4年生用の「四日市市小学校外国語活動カリキュラム」の活用を促進するため研修会を行い、小学5・6年生の外国語活動（年間35時間）への円滑な接続を図ります。
- 小学校から中学校への効果的な接続のため、小学校外国語活動を意識した授業づくりが行われるよう、文部科学省から配付されている教材「Hi, friends!」や再編成された「四日市市小学校外国語活動カリキュラム」などを活用した小学校外国語活動実践について、中学校教職員対象の研修会を行います。
- 担任による外国語活動や、英語指導員との連携による外国語活動の指導の充実を図るために、小学校教職員対象の研修会を行います。
- 四日市市外国語活動推進校2校および協力校2校を指定し、実践研究を継続します。各校における小学校外国語活動の充実に向け、カリキュラムの改善を行います。



【YEF との授業風景】

◆ 主な取組状況

- 中学校における英語指導員の派遣
  - ・ 市内すべての中学校に、11人の本市教育委員会在籍の英語指導員（YEF ※1）を派遣しました。（1人2校を担当）
  - ・ 各校で指導する英語科担当教諭とのチームティーチングで、主に「聞くこと」と「話すこと」の育成に努めました。
  - ・ YEF を活用したスピーチやプレゼンテーション、スピーキングテスト、書き取り、聞き取り等の活動により、多くの学校で学習効果が上がっています。
  - ・ スピーチコンテストや英作文コンテストにおいて、YEF が放課後に生徒と個別に練習する機会を持ち、発音指導や表現の指導を行いました。
  - ・ YEF は授業だけでなく、昼食・清掃・休憩時間や部活動などの学校生活の場面に参加することで、生徒たちとの自然な英語でのコミュニケーションに努めています。

重点① 問題解決能力の向上

- 小学校における英語指導員の派遣
    - ・ 英語指導員との連携による外国語活動を、小学校1～4年生において年間4時間、5～6年生で年間25時間実施するため、YEF11名に加えて、本市教育委員会在籍外の英語指導員（HEF ※2）8名を市内すべての小学校へ派遣しました。
    - ・ 児童が言語や文化を体験的に学べるように、一緒に給食を食べたり、特別活動や休み時間にともに活動したりしました。
  
  - 外国語活動推進校の実施および四日市市小学校外国語活動カリキュラムの再編成
    - ・ 小学校外国語活動推進校として4校を指定し、四日市市小学校外国語活動カリキュラム（暫定版）を活用し、1～4年生において各学級年間10時間の外国語活動を行いました。その授業実践を基に、カリキュラムの改善に努めました。
    - ・ 小学校外国語カリキュラム検討委員会において、小学5・6年生の外国語活動への円滑な接続を図るため、本市独自の小学1～4年生外国語活動カリキュラムの再編成をしました。指導案に加え、学級担任が教室で使う英語のリストや、カリキュラムに沿った絵カード、発音練習のためのDVD、推進校での英語環境づくりの取組例なども作成しました。
  
  - 幼稚園における英語指導員の派遣
    - ・ 言語や文化を体験的に学べるように、英語の歌を歌ったり、絵本の読み聞かせをしたりしました。四日市市小学校外国語活動カリキュラムを意識した授業を行いました。
    - ・ サンタクロースの衣装を着た英語指導員が、園児に直接プレゼントを渡して英語でコミュニケーションを図りました。
- 
- 【幼稚園・絵本読み聞かせ風景】
- YEFの指導力資質向上をめざし、公開授業や指導課による参観授業、指導方法の研修会を実施しました。
  
  - 外国語活動研修会の実施
    - ・ 小学校教員の指導力を向上のため、文部科学省直山木綿子教科調査官やYEFによる「Hi, friends!」を活用した授業実践、ティームティーチングでの外国語活動を体験する研修会を3回実施しました。小学校外国語活動研修講座受講経験者の割合も大幅に増加しました。
- ※1 YEF（「Yokkaichi English Fellow」の略）  
本市で直接雇用している教育委員会在籍の英語指導員をいいます。本市では、アメリカのロングビーチ市との姉妹都市提携と国の「語学指導等を行う外国青年招致事業」により採用している英語指導員を、主に中学校に派遣しています。
- ※2 HEF（「Haken English Fellow」の略）  
本市で直接雇用していない教育委員会在籍外の英語指導員をいいます。本市では、一般入札した派遣業者による英語指導員を、小学校に派遣しています。

## 8 少人数教育の充実

### ◆ ねらい

学習集団を少人数にし、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導を行います。

取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
小学校1年生、中学校1年生 における30人学級の実施率	77.4%	93.4%	96.7%	100%

### ◆ 現状と課題

#### ○ 少人数学級の実施

小学校低学年と中学校1年生では、よりきめ細かな指導を行う目的から、1学級あたりの人数を少なくした三重県の「みえ少人数学級」「少人数加配学級」などの措置を行っています。

また、平成23年度からは、本市独自に「中学校1年生30人学級(下限なし)」、さらに、平成25年度からは、本市独自に「小学校1年生30人学級(下限なし)」を実施しています。

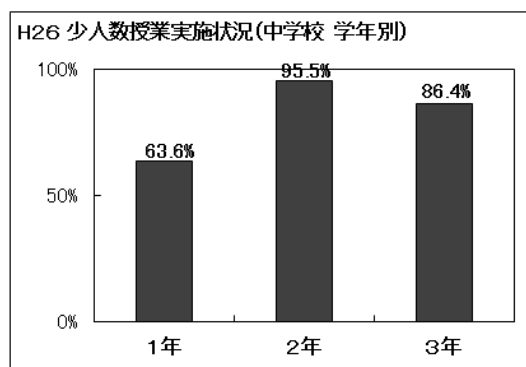
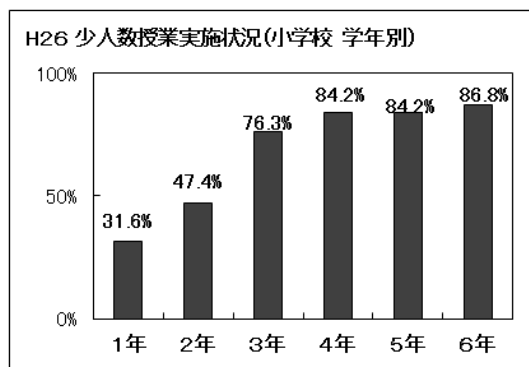
これらの施策によって、小学校1年生及び中学校1年生の1学級の児童生徒数が小規模となり、子どもの成長や発達に応じたきめ細かな指導を行うことが可能になっています。その結果、就学前と小学校、小学校と中学校との滑らかな接続を図ることができ、学びや育ちの連続性を大切にした「段差のない教育」を実現しています。

<小学校1年生、中学校1年生における1学級の児童生徒数の平均(人)>

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(見込み)
小学校1年生	28.1	27.5	24.7	23.4	23.9
中学校1年生	27.3	27.2	27.0	27.0	26.9

#### ○ 少人数授業の実施

少人数授業は、小学校38校、中学校22校のすべての学校で実施しています。



**重点① 問題解決能力の向上**

右の表は、少人数授業の実施状況について、教科別にまとめたものです。

各学校の実情や子どもの実態に応じて、実施する教科や学年は異なっています。

小学校においては、学習の積み上げが必要となる高学年の算数科において、多くの学校で少人数授業が取り入れられています。

中学校では、英語科において半数以上の学校が実施しているほか、学級規模が40人学級(国の基準)となる2年生及び3年生の数学科で実施する学校が多くみられます。

少人数授業実施状況(小学校38校中 教科別実施校数)

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	総合	外国語
1年	5		12		1	1	1	0	2		
2年	8		17		2	2	2	0	2		
3年	5	1	29	2		2	1	0	1	0	
4年	5	2	32	2		1	1	0	2	2	
5年	3	0	31	2		0	2	2	1	2	0
6年	6	1	33	3		2	2	2	2	1	1

少人数授業実施状況(中学校22校中 教科別実施校数)

	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	技術 家庭	保健 体育	総合
1年	2	0	7	0	11	1	1	1	2	9
2年	3	2	18	4	11	1	0	1	2	9
3年	2	0	15	0	14	2	4	1	1	9

**< 少人数教育の効果 >**

\* H24 文部科学省公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置の適正化に関する検討会議(中間とりまとめ)より一部抜粋

- 子どもたちにとって
  - ・ これまで以上に授業が理解しやすくなることで「学習意欲の向上」につながる。
  - ・ きめ細かな生徒指導が行われることにより、「落ち着いた学校生活」を送ることができる。
- 家庭・保護者にとって
  - ・ 「教員がきめ細かに対応」することができ、学校に対する信頼感が高まる。
  - ・ 「家庭との連携」が図られることにより、教員がより早く課題に対応できる。
- 学校、教員にとって
  - ・ 子どもたち一人ひとりに目が行き届き、学習のつまずきの発見や個々の学習進度等に応じた指導が可能となる。
  - ・ 子どもたちの発言の機会が増え、自分の考えを発表したり話し合ったりすることで表現力を高め、思考を深める授業展開が可能となる。
  - ・ 子どもたちが抱える悩みや相談に応える時間確保ができる。

**◆ 今後の方向性**

- ・ 少人数集団における指導が、より効果を発揮するために、指導方法や指導体制の工夫改善に努めていく必要があります。
  - (例)・ 児童生徒一人ひとりに応じた学習課題の設定
    - ・ 本市作成の「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」を活用した授業の充実
    - ・ 児童生徒の希望コース制による習熟度別学習の実施
    - ・ きめ細かなノート指導や点検指導の充実
- ・ 今後、教職員の世代交代が進む中、経験の浅い教諭・常勤講師・非常勤講師が増えることが予想されるため、全ての教職員の指導力を向上させるために協働した指導体制や組織的で工夫のある研修体制を継続して行っていく必要があります。

◆ 主な取組状況

- きめ細かく行き届いた指導を行うための授業時間数  
市内で実施されている多くの少人数授業は、国から配置された加配教員と、市単独で配置した非常勤講師によって行われています。講師配置に関わる人件費が削減される中、平成23年度以降は、講師1人当たりの授業時間数等の工夫により1校あたりの配置人数を確保し、より各校の実態・課題に応じた講師配置を行いました。

<市単独で配置した1校あたりの非常勤講師（平均）>

\* 学校規模によって変動があります。

	H22	H23	H24	H25	H26
週あたりの授業時間数	約 35 時間	約 24 時間	約 23 時間	約 25 時間	約 29 時間
配置人数	2.5 人	3.1 人	3.2 人	3.2 人	3.9 人